



平成22年9月30日

各位

上場会社名 株式会社 小島鐵工所
 代表者 代表取締役社長 児玉 正蔵
 (コード番号 6112)
 問合せ先責任者 取締役執行役員経理部長 田中 教司
 (TEL 027-322-1221)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年1月19日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年11月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年12月1日～平成22年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,000	270	300	165	16.50
今回発表予想(B)	2,300	10	35	20	2.00
増減額(B-A)	△700	△260	△265	△145	
増減率(%)	△23.3	△96.2	△88.3	△87.8	
(ご参考)前期実績 (平成21年11月期)	3,395	422	454	238	23.85

修正の理由

当社の主製品である大型油圧プレス機は、形状、能力、機能のほか、納期、一台当たりの金額もそれぞれ異なる個別受注生産でありますので、当社の売上は一定しておらず、季節的変動によるものでもなく、納期的、金額的なバラツキにより売上の変動が大きくなります。また、当社製品が大型プレス機械ゆえ、設計・生産着手から納品・据付まで平均して1年程度を要するため、受注から売上計上まで相当期間のズレを生じてしまうのが、当社の事業の特性であります。

このような事業の特性をもつ当社におきまして、当110期通期における売上高につきましては、リーマンショック以降の世界的金融不況の影響で設備投資が停滞し、引き続き受注が低迷したことで、前回発表予想数値には及ばず、30億円から23億円に減額修正するものであります。

利益面につきましても、受注低迷を踏まえ、原価低減を始め、人件費等諸経費全般に亘り削減に努めてまいりましたが、売上の低迷は如何ともし難く、前回発表予想数値には及ばず不本意ながら当110期の予想利益を1億65百万円から2千万円に減額修正するものであります。

なお、受注状況につきましては、当第3四半期の受注残は、営業努力により当第2四半期の受注残8億円弱から10億円弱の金額へと増加することができ、今後におきましても、現在成長著しいブリックス等国外を中心として大型案件の引き合いが浮上しており、成約に向け努力しているところであり、また、現在開発中のプレス関連の新製品は、国内外から引き合いがきており、一層の受注増加に努力しているところであります。

* 上記予想は、現時点に於いて、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以上